

閑話休題～環境について～

環境まちづくり

Vol.27

会長 木内 勝司



「環境」という言葉は、多くの人が口にしますが、改めてどういう意味を持つのかと問われると返事に窮してしまいます。人によって理解が異なる言葉であり、一口に環境問題といっても、それぞれの人がイメージしている内容が違えば、話はすれ違いに終わってしまい、話をあいまいにしてしまう側面があります。環境は、人間の立場から見た場合に、私たちを取り巻くすべてのことをさし、私たちが私たちの生活とかわかって成立するものです。狭い意味

では、人間が生産と消費の活動によって汚染し、破壊するという関係性の中での環境問題としてとらえられてきました。

より厳密に考えると、環境とは、あるものを主体（中心）にとった時に、それを取り巻き直接間接に関係を持つまわりのすべてのもの（客体）をさします。したがって、主体をどう取るかによって、その内容が変化します。

例えば、地球環境、生活環境、都市環境、水環境、大気環境、自然環境、里山環境、河川環境……〇〇環境などと言ったときの「環境」は、何が主体で、まわりとは何をさしているのか、ちょっと立ち止まって考えてみるのも、「環境問題」を理解する上でいいヒントが得られるかもしれません。

エコライフへの取り組み

地球温暖化による影響といわれる異常気象（ゲリラ豪雨、竜巻、豪雪等）が、最近多く報道されます。地球温暖化の原因は、人間の活動によって排出される二酸化炭素(CO₂)等の温室効果ガスの増加です。家庭でCO₂の排出をどのようにしたらどの位減らすこと

ができるか、「エコライフ・デー・チェックシート」を利用することで簡単に答えが得られます。

①外出は自動車に乗らず、徒歩・自転車・バス・電車を利用した（一日で309g削減）②お風呂は冷めないうちに、みんなが続けて入った（233g削減）③暖房の設定温度を下げた（157g削減）④市のごみ出しルールに従って分けた（115g削減）等、20項目をチェックすることで、今日一日の生活で何gのCO₂を削減できたか判ります。

地球温暖化防止部会では、このチェックシートの活用を環境フェア等で紹介してきました。昨年度は、小・中学生を含め延べ4万3千人の市民がチェックシートを活用し、約40トンのCO₂削減をすることができました。チェックシートを希望の方は市役所環境課までご連絡ください。

（森谷秀一 記）



第5回いるま環境フェアでのチェックシート参加風景

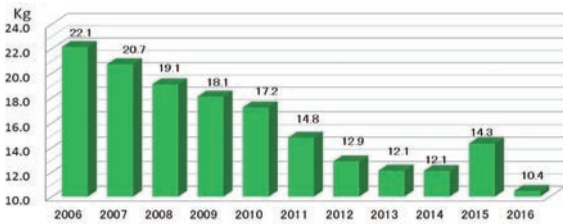
街をきれいにしよう！
12年目を迎えた

ごみひろい隊のあゆみ

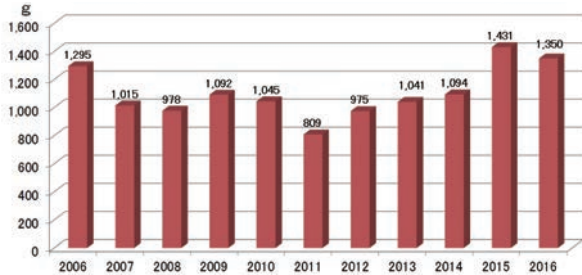


第111回 (2016年8月14日)

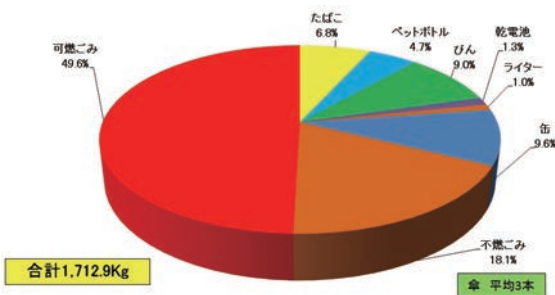
ごみの量 (1回あたりの平均)



タバコの量 (1回あたりの平均)



ごみの内訳



2005年11月に始めたごみひろい隊も12年目の2016年末には114回目を迎えました。最初8名で開始したごみひろい隊のメンバーも現在では約50名、毎回30名程の参加があります。夏の暑い日も、冬の木枯らしが吹く寒い日も、みんな志は一緒。少しでもき

れいな街づくりを目指しています。最近では楽しいという参加者が増えています。ごみの量は最初の頃は平均22kgだったのが2016年では半分以下の11kgに減少、環境まちづくり会議のピンク色のジャンパーを着て街中を歩くことで市民の理解が

得られたのではないかと思えます。ただし、タバコが一向に減る傾向は無く、むしろ増加の傾向にあります。今後の課題は、路上喫煙防止の条例化について、隊として考えていくことです。

(本多進 記)

毎月第2日曜日の午前中にごみひろい活動を始めたときは、何年も続くとは思ってもいみませんでした。徐々に参加者が増えて10年後には100回目を達成しました。活動の輪が広がり、きれいで住み良い街にと思います。

(石本勝彦 記)

みんなのごみ部会で、何か行動しようと考えたのが、ごみひろい。それがもう12年、110回を超えている。110回近くごみひろいをしていると、ごみを探すのはお手のものだ。日常のごみを歩いても非常にごみが気にかかる。

(鋼持和夫 記)

ごみひろい隊の活動をしていると、車道や歩道にタバコの吸殻が沢山落ちていてことに気がつきます。まだ、無意識にポイ捨てる人が多いことを感じます。一方、以前のようにゴミや吸殻がなく、きれいになった場所もあり、地域の方の意識の変化に嬉しくなります。行き交う人と挨拶を交わしたり、道端に花を見つけたら、楽しみながら活動しています。(宮岡廣美 記)

いるま 環境フェア

ントしました。3階では都市鉱山から発掘した金・銀のインゴット展示を目の当たりにし、その重さに皆ビックリでした。



展示コーナー

公園では、駿河台大学の先生を中心に大人も子どももネイチャーゲームで思い切り環境を実感しました。

「いるま」から発信！わたしが取り組む環境のカタチ。それぞれのカタチが見つかるきっかけになる、そんな環境フェアを作っていけたらと、実行委員会メンバーは考えています。

第6回いるま環境フェアは10月1日に開催が決まりました。皆さまお誘い合わせの上、「環境のカタチ」を探しにきてくださいね。

(二ノ宮小百合 記)

第5回いるま環境フェアは、市制施行50周年とも重なり盛況に開催することができました。当日は天候にも恵まれ多くの市民の皆さまにご来場いただき、環境問題を考える時間をともに過ごせたことを嬉しく思います。

和室では、おもちゃ病院、牛乳パック竹トンボ、ストラップ作りは毎年子ども達に人気です。1日遊ぶには欠かせない、中庭の美しい模擬店や2階学習室の環境カフェは、環境にやさしいコーヒーでホッとする時間を提供しました。産業文化センターを飛び出して、児童センターでは木組みのジャングルジムや古新聞で防災スリッパ作りを体験しました。彩の森入間



ネイチャーゲーム

環境に関する 団体との交流会



した。これについて、近年入会者のあった団体からは、「ホームページを見てきた人や口コミにて入会している、また、当団体の活動が有償ボランティアであるのも魅力になってい

去る1月28日、市民活動センターにおいて、環境に関する団体との交流会が開催されました。参加者は10団体で14名でした。はじめに、各団体の活動内容や会運営における問題や課題等について説明があり、その後、情報交換を行いました。

長年にわたって活動している団体においては、会員の減少と高齢化が問題になっており、新規会員の募集について、他団体の状況を参考にしたいという意見が多くありま

(幸森康夫記)

ヤマガラくらぶ

代表 工藤 雅彦

1998年の発足以来、市内加治丘陵における里山ボランティアとして活動してきました。加治丘陵内には手つかずになってしまったスギ・ヒノキの植林地、またササが生い茂った林が少なくありません。そのような暗い林は植生が貧相で、花もあまり咲きません。そこで、スギ・ヒノキの間伐やササ刈りを行い、林内に日光が差すようにして植物の種類を増やし、そこに集まる生き物を増やそうと活動を始めました。

活動地内には間伐材のヒノキで作ったウッドデッキが設置してあります。丸太のイスと大きなテーブルもあり、一般の方もご利用できます。木々に囲まれたの食事は格別ですよ。

メンバーそれぞれができる範囲で無理なく活動しています。女性も参加しています。興味のある方、ご連絡をお待ちしています。(年会費1,200円)



ヤマガラくらぶ

連絡先：
04-2962-7196



団体紹介コーナー

平成28年度の事業報告

- 5月 ● 総会
- 6月 ● 第5回いるま環境フェア開催
- 7月 ● 路上喫煙防止キャンペーンに参加
- 9月 ● ポイ捨てゼロ推進運動に参加
- 10月 ● ごみ減量・マイバッグ推進キャンペーンに参加
 - いるま万燈まつり会場のごみ拾いを実施
- 11月 ● 首都圏外郭放水路・雪印メグミルク見学
 - 環境ウォーキング (雨天の為中止)
- 12月 ● 生涯学習フェスティバルに参加
- 1月 ● 環境に関する団体との交流会
- 3月 ● 会報の発行

※7月～9月及び12月～2月にエコライフ・デー活動を実施

※ごみひろい隊の活動は、毎月第2日曜日に豊岡コースと藤沢コースを交替で実施 (詳しくは、ホームページの「ごみひろい隊」をご覧ください)

入間市環境まちづくり会議

検索

URL : <http://www.kankyo-iruma.net/>

会員数 384 (人・団体)

入間市環境まちづくり会議

事務局 入間市役所環境経済部環境課

TEL 04-2964-1111 (内線 4221、4222)

FAX 04-2965-0232 (代表)

